



7月号

# 学校だより

令和4年6月30日

横浜市立南小学校

校長 薄田 秀明

## 「『ありがとう』の反対の言葉」

がっこうちょう うすだ ひであき  
学校長 薄田 秀明

2022年も半年経ち、まもなく夏休みを迎えようとしています。学校にある紫陽花がきれいに咲き、子どもたちが4月から大切に育てている植物もぐんぐん成長しています。18日の土曜参観には、制限ある中でしたが、多くの保護者の参観と引き取り訓練も混乱なく終えられたことに感謝いたします。先日は、2年間実施していなかった水泳学習も、5、6年生だけですがコロナ感染症対策をしながら再開しました。久しぶりのプールで子どもたちは緊張しながらも水の感触を楽しんでいました。また、6年生は、28・29日に日光修学旅行に行ってきました。小学校生活最初で最後の宿泊学習を楽しむと同時に自分たちで決めたテーマに向かって努力している姿や模範となる行動に感動しました。9月にも4・5年生の宿泊体験学習が控えているので、体調管理、感染症対策をしながら実施していきますので、ご家庭でのご協力を引き続きお願いいたします。

さて、ある新聞記事に「『ありがとう』の対義語を知っていますか」という文字が目にとまりました。みなさんは『ありがとう』の対義語(反対言葉)は何だと思えますか？

答えは「当たり前」なのだそうです。その理由は、「『ありがとう』を漢字で書くと『有難う』となり、あることがむずかしい、まれであるという意味になり、すなわち「奇跡」ということになる。奇跡の反対は、常日頃に起こることとなるので、「当然」とか「当たり前」となる。」ということだそうです。

人は、他人からしてもらったことに対して、最初は感謝の気持ちをもっていても、いつの間にか「ご飯をつくってもらって『当たり前』」「見守ってもらうことが『当たり前』」のようにやってもらうことが『当たり前』と思い込んでしまうことがあります。しかし、『当たり前』という言葉はする側が使うべき言葉であって、してもらう側が使う言葉ではないと思います。

子どもたちは(本校職員も含めて)保護者の皆様をはじめ、地域の自治会の皆様など本当に多くの方々に支えられています。いつも本当にありがとうございます。そうした学校生活を支えてくださっている皆様の活動を『当たり前』と思うのではなく、いつも『ありがとうございます』という感謝の気持ちを挨拶や言葉を通していけるように今後も指導していきます。今月も本校の教育活動にご理解とご支援をよろしくお願いいたします。